

あむーる

佐川春水先生

みなさんは**佐川春水（さがわはるみ、通称しゅんすい）**といっても、ピンとこないでしょうね。松江北高の大先輩で偉大な英語学者です。明治36年2月10日夜、東京高等師範学校の第一回の「英語会」が開催されました。この会は大成功で青年会館は聴衆であふれかえったそうです。当時のしきたりでは、このような場合の開会の辞は、学校の教授が務めるのが普通ですが、この時は高等師範学校の学生がやってのけました。その並はずれた英語の実力は、一夜にして学校の内外に認められたそうです。時の英語の第一人者**神田乃武**が「あの学生は本当に高師の学生か。アメリカ帰りの者ではないか？」と聞いたくらいですから。またこのときの熱演ぶりに、時の文部大臣のお嬢様が感激して泣き出してしまったと伝えられています。秀才の誉れ高かった**佐川春水**先生の若き日の姿です。

佐川先生は、明治11年島根県松江市南田町に、松江藩士の家に生まれ、本名は「はるみ」と読むのが正しいのですが、「しゅんすい」と呼ぶ人が多いようです。**斉藤秀三郎**の下で、正則英語学校の教師を長く務められるのですが、その書かれたものを見ると、「いかに正確に英文を読むか」に心を砕かれている様子がよく分かります。あの**福原麟太郎**先生も絶賛されていたそうです。島根大学で授業を受けた**池野 誠**先生にお話を聞くと、授業が面白くて面白くて、大教室が溢れかえったそうです。並はずれた英語力に（サマセット・モームの購読）、役者のような演技力と、知的興奮のある授業だった、とのことです。ご子息の**佐川 洋**先生も島根大学で教鞭をとられました。俳句を詠まれるときの俳号は**佐川雨人**、松江市北田町にある「**普門院**」には句碑が建っています（写真）。

松江北高3年生4Rの「ライティング」の授業は、桐原書店の『システム英作文』を使って指導しています。その冒頭、第一課は「**無生物主語構文**」でした。読解でも無生物が主語になった場合には「**副詞的に訳せ**」が鉄則ですが、このことをいち早く日本で提唱したのが、佐川先生です。佐川先生が提唱された「**出川の鬼（デガハノヲニ）**」をご



島根県立松江北高等学校
第3学年 八幡英語通信
2016年5月17日発行
第5号

No.5

先輩は語る <5>



広島大学文学部 内田智久

皆さんこんにちは。北高卒業生の内田です。皆さんの役に立つかどうか分かりませんが、受験を経験して自分なりに思うことをお伝えしたいと思います。

まずは、勉強の計画の立て方と時間の使い方についてです。1、2年の頃の僕は、定期試験に向けて勉強の計画を立てる際に、「この日は〇〇を終わらせる。」というような決め方をしていたのですが、その課題に予想以上の時間がかかることも多く、当日中に終わらずに翌日以降に持ち越してばかりで、結局試験直前に焦って徹夜することが多かったです。そこで、3年になってから、ある先生の話参考に計画の立て方を変えました。その方法は、1コマ=〇分として「この課題には〇コマ使う。」と決める、というものです。この方法は、要するにある程度時間を区切って勉強する、というのですが、適度にやることを変えることで集中力が維持でき、制限時間をもうけることで短期集中で効率良く勉強でき、とてもおすすめです。

次に、模試についてです。土曜日ごとにあるので、全部きちんと直そうと思うと正直大変です。ですから、僕は**優先順位をつけて直して**いました。模試を解いていて、ここがひどかったなと思う部分から優先してやることで、効率良く直しをして、次の模試に繋げることができます。

次に、体調管理についてです。僕は、眠くなって頭の回転が鈍った状態で勉強するぐらいなら、いっしょっきり寝て頭も体もリフレッシュしてから集中して勉強した方が身になる、と割りきって、夜は必ず6時間は寝ていました。また、夜型の生活をやめ、早寝早起きを心掛けて早朝に勉強するようにしていました。これらのおかげで、朝スッキリと起きて集中して勉強でき、朝ごはんもしっかり食べることができるなど、様々な良い効果があり、1年間元気に過ごせました。ですから、受験生と言えども睡眠は十分にとり、朝型の生活をすることをおすすめします。

最後に、気持ちの持ち方についてです。僕は、ある程度早い段階で良い判定が出ていたために、「このままいけば受かるはずだ。」と、かなり慢心していました。ところが、模試の点数は伸びないどころか落ち始め、次第に焦る気持ちが強くなっていきました。そこに至ってもう一度気持ちを引き締めて猛勉強して、何とかもとの点数まで戻しましたが、結局あまり伸びませんでした。ですから、常にある程度焦って、良い緊張感を保つことは大切だと思います。そのためにも、早いうちから志望校の赤本を解いてみて、そのレベルを知っておくと良いと思います。

気持ちの持ち方について伝えたいことがもう1つあります。それは、「辛いときはみんなで頑張る。」ということです。勉強をしていてどうしても前に進めない、辛い、苦しいと思った時には、教室で頑張るクラスの仲間の姿を見て下さい。僕は何度励まされたかわかりません。皆さんもきっと勇気を得られるはずです。④最近の北高で希薄になってきたのがこの「みんなで頑張る」という精神です（八幡）

以上が僕が経験上皆さんに伝えておきたいことです。少しでも皆さんの参考になれば幸いです。北高で頑張る皆さんの健闘を、心から祈っています。

▲昨年度の4R担任の安原先生より「合格体験記」を提供していただきました。みなさん、参考にしてください。八幡が勉強になったと思った部分には下線を引いておきました。

★八幡のサイト「チーム八ちゃん」はコチラ→ <https://teamnacchan.wordpress.com/>



存じの先生も少なくなってきました。最近の若い先生は、佐川春水先生の存在すら知らない人も多いようです。いじめっ子の出川君に例えて、英語の格には三つあって、**主格は「デ・ガ・ハ」**で表し、**所有格は「ノ」**で表し、**目的格は「ヲ・ニ」**で表す。主格の中に「デ」が入っていることにご注目ください。まさにこれは「無生物主語構文を副詞的に訳す」（「〜で」）ということに他なりません。八幡は授業でも佐川先生のことを話し、「出川の鬼」に言及しています。

こんなことをブログに書いたら、読まれた国立国会図書館の方から問い合わせがあって、佐川先生のお身内の方が松江に住んでおられるか？ということでした。お寺に行ったり、電話をかけたり、私の知り合いに問い合わせたりして、持てる力を総動員して結局判明したことは、お身内の方は誰も住んでおられないことがわかりました。

偉大な北高の大先輩